

NEW!!

床面のフラット化を
極限まで追求!

新世代パンタグラフ式

EAGLE **FX** LIFT

EGY-F32AZX

EGY-F32BZX

イーグルFXリフト



能力3.2ton、
揚程1.8m
RV、小型トラックまで対応

足元を気にせず
作業できる
フラット化を実現

エア圧0.4MPa
から使用可能な
省エネ設計

上昇、下降時も
床面はフラット
工場的美観にも!

下記のQRコードをスマートフォンや
タブレット端末のバーコード
リーダーで読み取って下さい。



※通信費用はお客様のご負担となります。
QRコードは株式会社デンソーウェアの
登録商標です。

BANZAI NEWS

2016
Winter
297

特集
BANZAI NEWS

時流を読む。
～イノベーションに必要なものとは?～
近未来のモビリティをサポート
自動車サービスの新たなコンセプト

BANZAI 株式会社 バンザイ <http://www.banzai.co.jp>

本社
東京都港区芝2-31-19
TEL 03-3769-6880
E-mail: teigy@banzai.co.jp

札幌支店
札幌市西区24軒1条7-3-10
TEL 011-621-4171
E-mail: sapporo_br@banzai.co.jp

仙台支店
仙台市宮城野区福室2-8-21
TEL 022-258-0221
E-mail: sendai_br@banzai.co.jp

関東支店
埼玉県北本市朝日4-553
TEL 048-590-3700
E-mail: kanto_br@banzai.co.jp

東京支店
東京都港区芝2-31-16
TEL 03-3769-6840
E-mail: tokyo_br@banzai.co.jp

名古屋支店
名古屋市千種区青柳町6-26
TEL 052-732-2600
E-mail: nagoya_br@banzai.co.jp

大阪支店
大阪市長田東3-3-11
TEL 06-6744-1041
E-mail: osaka_br@banzai.co.jp

広島支店
広島市西区南観音2-7-10
TEL 082-233-3201
E-mail: hirosima_br@banzai.co.jp

福岡支店
福岡市博多区那珂5-3-15
TEL 092-411-1261
E-mail: fukuoka_br@banzai.co.jp

海外販売部
東京都港区芝2-31-16
TEL 03-3769-6894

- 営業所 旭川・青森・秋田・盛岡・郡山
山形・新潟・長野・前橋・宇都宮
水戸・埼玉・千葉・横浜・静岡・多摩
北陸・三重・京都・神戸・高松
- 出張所 帯広・函館・富山・松山
岡山・山口・長崎・大分・熊本
- 販売会社 バンザイ南九州販売(株)
バンザイ沖縄販売(株)



ISO9001・ISO14001
自動車整備機器検査用機器の設計開発販売及びサービス
バンザイでは「顧客第一主義」を信条に
お客様とのきずなを大切に、
お客様満足度の向上を図ってまいります。



紀伊山地・熊野の雲海——和歌山県新宮市

三重、和歌山、奈良の三県境に連なる紀伊山地、雲海に浮かぶ熊野の山々。高野山、吉野山、熊野、そして伊勢三山へと巡る信仰の道は「紀伊山地の霊場と参詣道」として、平成16年、世界遺産に登録されました。幾重にも連なる峰をシルエットに染めて、朝焼けの空が広がっていきます。

★歳時記

- 1月 1日 元旦
- 7日 七草
- 11日 成人の日
- 2月 3日 節分
- 4日 立春
- 11日 建国記念の日
- 3月 3日 ひな祭り
- 17日 彼岸入り
- 20日 春分の日



●目次

- ★新年のごあいさつ…………… ①
- ★特集 時流を読む ～イノベーションに必要なものとは?～…………… ②
近未来のモビリティをサポート
自動車サービスの新たなコンセプト
- ★モデルショップ訪問【株式会社ジェイエイライフ 車両センター】…………… ⑥
給油から販売、サービスまで
ワンストップの車両センターが誕生
- ★モデルショップ訪問【ヤナセオートモーティブ株式会社 一宮支店 アウディー宮】…………… ⑧
プレミアムブランドにふさわしい
販売とサービスの新拠点を完成
- ★モデルショップ訪問【盛岡いすゞモーター株式会社 花北支店】…………… ⑩
拡大する中・小型トラック市場へ向けて
新時代へのサービス体制を確立
- ★ショールーム…………… ⑫
- ★TOPICS<コードリール、リモコンリール使用のご注意>…………… ⑮
- ★ロータリー…………… ⑯
- ★BANZAIガイド…………… ⑰

あけましておめでとうございます

2016年の新春をお健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

平素より格別のお引き立てを賜り、誠に有難うございます。

昨年の社長就任以来つづがなく新年を迎えることができましたことは、皆様のあたたかいご支援、ご厚情の賜物であると心より御礼申し上げます。

さて、本年はうるう年、4年に一度のオリンピック・パラリンピックイヤーです。今年の開催はリオデジャネイロ、さらに4年後にはいよいよ東京での開催となります。そしてこの年、2020年はバンザイにとって100年の歴史を刻む年となります。

1920年、弊社がスタートした年、わが国の自動車保有はようやく1万台に達しようかという規模に過ぎませんでした。以来、モータリゼーションは経済の発展とともに拡大し、現在では8,000万台という数にのぼっております。この間、一世紀近くわたってバンザイは自動車とサービスに携わる皆様と共に歩みを進めて参りました。

自動車サービスにおいては故障修理が大きな柱であった時代から、予防整備の時代へ、さらに診断と提案を通じて安心と快適さをサポートするサービスへと、車の技術が高度に進化するにつれてサービスの役割も大きく変化してきました。一方、エコロジーの側面からは環境負荷の少ないクリーンエネルギー車の開発、普及も急速に進み、そしてITの進歩とともにいまや自動車はぶつからない車、自動運転で走る車へと大きな進化が現実のものになろうとしています。

昨年、日本自動車工業会からリリースされました自動運転ビジョンによりますと、ITSをはじめ各種の運転支援システムの導入から高度な自動化にいたる流れは、2020年までを実用化、導入期とし、さらに2030年までを普及拡大、展開期と位置付け、2050年までには社会に定着、成熟させていくとしています。

このように近い将来の自動車社会を念頭に置いて、サービスのあるべき姿を描いたとき、その未来像実現への道筋を現在から構築していくことが大切と思われます。

バンザイはこうした考えから、本年のテーマを「時流を読む。～イノベーションに必要なものとは?～」として、イノベーションに不可欠な「ビジネスモデル」づくりをご提案しています。また弊社内におきましてもさまざまなイノベーションを推進し、自らの変革に努めております。日々の営業活動はもとより、各種ご提案、サポートのご提供を通じて皆様により一層のご満足と、ご信頼いただけることが100年企業にふさわしいバンザイのあり方と考えております。

皆様にとりまして2016年が発展と飛躍の年となりますよう、弊社も微力ながらお手伝いさせていただきます。本年も倍旧のお引き立てを賜りますよう、お願い申し上げますとともに、末筆ではございますが皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

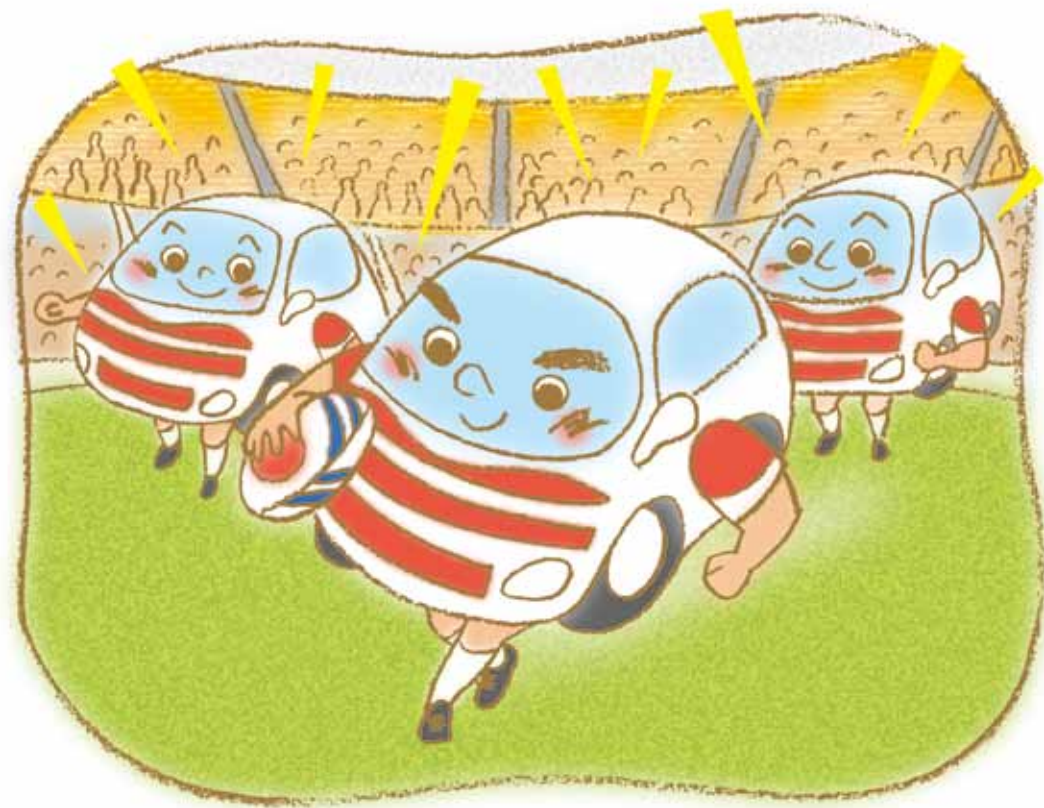


株式会社 バンザイ
代表取締役社長 柳田 昌宏

時流を読む。

～イノベーションに必要なものとは?～

近未来のモビリティをサポート 自動車サービスの新たなコンセプト



2016年の新しいスタートを迎えました。今年はうるう年、4年に一度のオリンピック・パラリンピックイヤーです。本年の開催地はリオデジャネイロ。昨年のワールドカップ以来人気急上昇のラグビーも日本代表チームの出場が決定するなど、各種の競技で話題がマスコミを賑わせています。2020年の東京オリンピックもあと4年に迫ってきました。新しい年、自動車と私たちの社会をとりまく変化の流れを振り返り、あわせて近未来の自動車社会を展望してみましよう。

科学の最先端に見る、地道な取り組みの成果

昨年のスポーツの話題では、なんとといってもロンドンで開催されたラグビーワールドカップでの日本代表の活躍が一番にあげられます。世界3位の強豪、南アフリカに劇的な逆転勝利をおさめたことは日本ラグビー史上の快挙でした。予選で3勝をあげたにもかかわらず、惜しくも勝ち点差で予選突破はなりませんでした。まさに歴史的な出来事であったといつてよいでしょう。また7人制ラグビーの日本代表チームが本年開催されるリオデジャネイロオリンピックへの出場を決めるなど、わが国にラグビーの新しいブームを予感させる年となりました。一方、科学技術の分野でのトピックとしては、2人の日本人科学者がノーベル賞を受賞したことがあげられます。物理学賞の梶田隆章・東京大学教授と生理学・医学賞の大村智・北里大学特別栄誉教授です。梶田教授の研究成果は、物質の最小単位の素粒子であるニュートリノにも質量があるという素人には難解でちょっと縁遠いようなテーマですが、これは70年にもわたる定説を覆し、宇宙の根源にも迫る研究成果なのだそうです。

もう一人の大村栄誉教授の研究は、土壌の中の微生物が作り出す抗生物質のなかから医薬品として利用できるものを探し出し、医療に役立てるもので、その成果はすでに世界の医学界でも称賛され大きな実績を上げているそうです。「ゴルフ場の土から発見」というエピソードがマスコミで取り上げられ脚光を浴びましたがそれはたまたまの結果で、その研究とは、毎年数千もの各地の土

のサンプルのなかから微生物を培養し、その中から役に立ちそうな物質を探し出し、さらに長い研究を経て人間にとって有用な成分を探し出すという、まさに地道な研究の成果なのです。先にあげたニュートリノの研究同様、気の遠くなるような取り組みの成果なのだと言われました。

急速に進化する車と社会のかかわり

さて、自動車関連でも環境負荷の低減や、安全性、走行性能の追求のための技術革新が急ピッチで進められています。サービスの現場でもエンジンや各種システムの診断など、日々の作業の中で急速な自動車技術の進化に直面しています。ヘッドライトひとつをとってみても、HID、LEDへ、さらにALHなどの制御システムの採用など、サービスの上で対応に戸惑うような場面もあるのではないのでしょうか。

昨年開催された第44回東京モーターショーでは、すでに市場でも大きな販売シェアを占めているハイブリッド車(HV)や、これも普及しつつあるEV、さらに水素社会に向けた燃料電池車(FCV)など、さまざまなクリーンエネルギー車(CEV)の展示が人気を集めていました。その一方で、同様に来場者の高い関心を集めていたのは、各メーカーで開発が進められている自動運転車の実用化に向けた取り組みです。これも各メーカーによりその方向や実現の



ステップはまちまちですが、これも近い将来への実用化に向けて開発がすすめられています。

米国の道路交通安全局が想定する自動運転の分類では4つのレベルが設定されています。第1段階では自動ブレーキや定速走行・自動車間距離制御、車線維持支援などの単独機能、第2段階はこれらの機能を統合制御し高速道路など限定した条件での自動運転、第3段階は人の操作がほぼ不要となる高度な自動運転、そして第4段階では完全な自動運転となっています。現在では各メーカーとも第1段階はすでに実用化し、さらに第2、第3のレベルへ向けて、公道での走行実験なども行われています。自動車メーカーばかりではなくIT企業も加わり、開発がすすめられています。わが国では行政面からも将来の高度な自動運転車両の実用化へ向けた法律の整備が進められているようです。

このような自動運転技術の目指すところは単に個人の負担の軽減や利便性の向上ばかりではなく、交通事故の減少、渋滞の解消、CO₂の削減など様々な社会的効果が期待されています。

モビリティ、車と人の新しい関わり

日本自動車工業会がモーターショーに合わせてリリースした「自動運転ビジョン」ではこれらの取り



組みを「世界で最も安全、効率的で、自由なモビリティ社会の実現」を目指すものとしています。そういえばモビリティという言葉も昨今盛んに使われるようになってきました。ここ2回のモーターショーでも「スマートモビリティ」として、社会基盤の中で環境負荷やコストを低減し、円滑で快適な移動を実現する交通のあり方をプレゼンテーションしています。同ビジョンの中では交通事故による経済損失は年間6.3兆円、交通渋滞による損失は10兆円にも上ると試算しています。また渋滞によって排出されるCO₂は30%増加するともいわれています。

直近の2014年のデータでは年間の交通事故死者数は4,113人と、14年連続で減少を続けています。大きな流れで見ればさらに長期間、92年から22年連続で減少傾向を続けていることとなります。自動車の普及につれて交通事故の増加が社会問題となり、交通戦争といわれたのは昭和40年代、そのピークの1970年の事故死者数は何と1万6,765人だったことから比べると、その数は現在では4分の1以下、しかも当時の保有台数は1,650万台(軽、二輪を含む)、現在は5倍近い8,000万台(同)ですから、これは大幅な減少といえるでしょう。その背景としては、もちろん道路や信号などインフラの整備、交通違反の厳罰化などの要因もありますが、自動車の性能および技術の向上とともに、それを維持する自動車サービスの役割も大きいことは言うまでもありません。このような流れをさらに進め「事故ゼロ、渋滞ゼロ」に挑戦し、同時に「自由な移動、効率的な物流」を実現する究極のテーマとして「自動運転」への取り組みが

位置づけられているのです。

同ビジョンでは、東京オリンピック・パラリンピックの開催される2020年には自動運転技術の導入、実用化を、さらに2030年には普及拡大を目指すと言われており、新しいモビリティ社会の実現ももう間近に迫っているようです。

ニーズ変化をとらえる、新しいビジネスも

もうひとつ、ここ数年の新しい動きとして見えてきたのはカーシェアリングです。現在ではまだ大都市圏が中心のようですが、その拡大の速さには目を見張るものがあります。カーシェアリングのシステムの導入自体はわが国ではもう10年以上前になりますが、ようやく普及し始めたのはここ数年のことです。最近ではコインパーキングなどでもしばしば見かけるようになってきました。レンタカーと比べて割安に、手軽に借りられることや、短時間の利用もできるのがメリットです。入会手続きさえ済ませてしまえば、スマートフォンなどで簡単に予約できるなど容易に利用できることで会員を増やしています。一台の車を多くの会員が共有するという形で稼働効率を上げ、また車の個人所有に伴うコスト負担を低減し、あわせてCO₂排出などの環境負荷を低減する、エコロジーとモビリティの融合したシステムとも言えそうです。

2010年には全国でもわずか1,200台、会員も16,000人ほどだったのが、6年間で台数は約1万6千台に、会員数は約68万人へと急カーブを描いて上昇しています。これも車社会全体からすればまだ微々たる数字ですが、とくに都市部などでの車利用のあり方として今後も一定の水準ま

で拡大していくものと思われます。

要は消費者のニーズの変化や価値観の多様化などに加え、低炭素化社会への移行など、社会的要因の変化がこうした需要を生み出し、新しいモビリティへの動きを作り出しているということでしょう。

安全と安心を守る、サービスの不変のコンセプト

さて、自動車社会がどのように変化していこうとも、その仕組みを支えていくことが自動車サービスの役割です。多様化するニーズの中で安全、快適なモビリティを提案し、サポートしていく、このコンセプトは不変です。

前段であげたような科学研究と同様、地道な取り組みといえばこれは企業活動も全く同じです。従業員の満足度を高め、顧客満足度を向上し企業満足につなげること、これらを実現するのは日々の積み重ねに他なりません。最新の自動車技術に対応して安全・快適なカーライフを提案すること、さらにそれを可能とする知識・技術を習得すること、そして設備・作業環境を改善していくことなど、将来への取り組みを日々の中で実践していくことがますます大切になっていきます。2016年、近未来の自動車サービスへ向けて、カウントダウンはもう始まっています。



給油から販売、サービスまで ワンストップの車両センターが誕生

山形県寒河江市の(株)ジェイエライフではこのたび、従来の2工場を統合集約し、寒河江市内に新車両センターを完成しました。お客様の来店しやすい立地、明るく快適な店舗、そして最新の設備を備えたサービス工場として、新車販売から点検整備、車検など、あらゆるサービスを効率的に行える環境を実現しています。



手前からガソリンスタンド、車両センター、奥が中央農機センター



道路に面してガラス張りの明るい商談ルームをレイアウト



サービス工場外観。オーバースライダーシャッターを採用

お客様への利便性とサービスの効率化を実現

同社は、サクランボやラ・フランスなどの特産物で知られる「さがえ西村山農業協同組合」を母体とし、寒河江市を中心に不動産、ガソリンスタンド、自動車などの事業を展開しています。自動車サービスでは従来、1市4町に2ヶ所の車両センターを稼働してきましたが、設備の更新及び整備作業の効率化を目的として寒河江、河北の2工場を今回の新車両センターとして集約したものです。

山形県のほぼ中央に位置する寒河江市の国道287号線に面した車両センターは、前面を明るく快適なガラス張りの商談スペースとした斬新なデザイン。隣接敷地にはセルフスタンドと農協の中央農機センターを併設し、お客様の利便性とあわせて、来店・集客性の向上を図っています。



右端ストールのワークステージリフトはレセプションにも活用



検査ラインにはネットワークマスターを導入



常務取締役
鈴木 昭彦 氏



燃料部長
大沼 昭継 氏



車両センター長
秋場 義廣 氏

社員全員によるイノベーションを実践

車両センターは建物面積約440坪。サービス工場には10ストールにタンデムリフト6基、ネオパスカルリフト2基、ワークステージリフト1基、中・小型トラック用にプラトニリフト1基を導入。また検査ラインにはネットワークシステムとフロントマスターをオンラインで導入(ネットワークマスター)し、検査業務と顧客管理の効率的な運用を実現しています。さらに別棟には洗車場として3ストール、納車・軽整備に1ストールを併設しています。

新工場の計画にあたっては社員のプロジェクトにより企画立案されたとのこと。「今までは工場も仕事のやり方も古い形だったので、サービスも我々自身も変わらなければいけないという思いでした」と常務取締役、鈴木昭彦氏。そのため「社員が自信を持って仕事できる、どこにも負けない環境づくり」(同)を実現しています。



隣接敷地に集客性の高いセルフのガソリンスタンドを併設



右側に隣接する中央農機センター外観



コンバイン用リフトを3基導入



農機整備にはXリンク式ドライブオンリフト、ワークステージXも威力を発揮



3ストールの洗車場で作業の流れがスムーズに

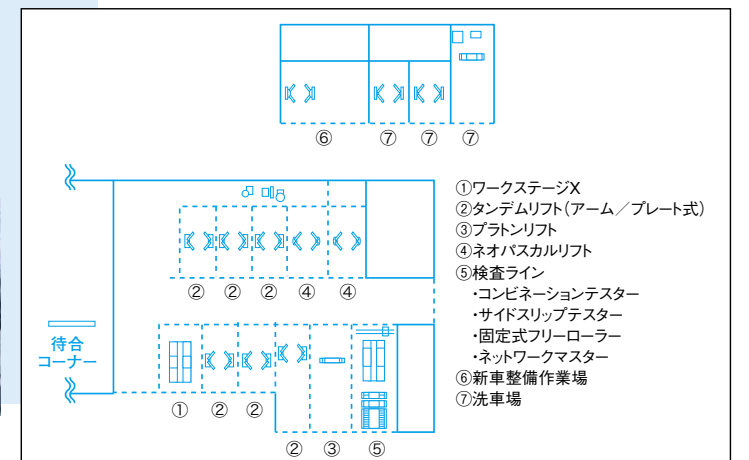
サービスフロント、待合コーナーもゆったりと広いスペースに

待合コーナーに窓を設け、「見える工場」に

各種コミュニケーション企画にも取り組む

「とくに女性客にも気軽に来店してもらい、ゆっくりといただけるような設備、店舗に」と、燃料部長の大沼昭継氏。新店舗の完成により「社員のレベルアップ、モチベーションアップにもつながる」(同)と期待されています。また待合コーナーにはサービスストールが見える窓を設け、短時間・立会車検も導入していきたいとのこと。

「とにかく来店率の向上が課題です」と車両センター長の秋場義廣氏。新車両センターは土日営業も実施、「平日、土日に関わらず、一台でも多くご来店いただくことを当面の目標として、チラシでのアピールやイベント企画なども実施していきたい」(同)と意欲的に取り組まれています。オープニングでは地域の様々な企業の協力のもとに各種のイベントを実施、とくに人気スイーツ店のドーナツが大人気を博したとのこと。新店舗のアピール効果をさらに高める工夫も模索されています。



プレミアムブランドにふさわしい 販売とサービスの新拠点が完成

ヤナセグループのアウディ正規販売店、ヤナセオートモーティブ(株)では、このたび愛知県一宮市に「アウディー宮」を新たに開設。最新CIを導入したショールーム、最新設備のサービス工場により一宮市、名古屋北部エリアにおけるプレミアムブランドとしてのアウディ車の販売・サービス拠点をオープンしました。



国道22号線に面して斜めにレイアウト、視覚的にも目立つ店舗に



全面をガラス張りにしたショールーム



ショールーム入り口、3方がガラス張りとなっている

店舗、サービス工場に最新CIを導入

名古屋市内から北へ向かう幹線国道22号線、名岐バイパスに面した新店舗はアウディの最新CIである「アドバンスドショールームコンセプト」を導入、独特なアルミ材を使用したシルバーの外観と、ホワイトとグレーを基調としたモノトーンのショールームによりアウディの先進的なイメージを表現しています。

新店舗は名古屋中央、楠に次いで同社の愛知県内における3番目の拠点として開設されたものです。「地域性として車にこだわりを持つユーザー層が多いのですが、従来のプレミアムブランドとしてはアウディだけがありませんでした」と支店長の鈴岡泰昌氏。このエリアの高い市場性から、拠点計画が懸案とされていたとのこと。



支店長
鈴岡 泰昌 氏



サービス課 課長
高橋 優仁 氏



ショールームには8台を展示できる広さ



ショールーム側から見て左が納車室、右がレセプションストール



レセプションストールの内部がサービスカウンター

先進性をアピールするサービス環境を実現

全面をガラス張りにしたショールームにはA1からA8まで8台、アウディの幅広いラインナップを展示。また納車とレセプションに、それぞれ専用のストールを設けています。

店舗奥のサービス工場には5ストールにタンデムリフト4基を設備し、また検査ラインにはトリプルテスター及び固定式フリーローラー、車検業務システム「ネットワークPro」が導入されています。

サービス工場内の配色も全てCIに基づいてホワイトとグレーに統一され、店舗同様に先進的なイメージとなっています。「リフトもすべて床面とフラットな埋設式となり、作業性も非常に向上しました」と、サービス課課長、高橋優仁氏。環境面ではリール式の排気ガス排出装置も設備されるなど、アウディのブランドイメージを、サービス面からもアピールできる設備環境となっています。



全5ストールにタンデムリフト4基を導入

ストールごとにツールキャビネットを設備

検査ラインにはトリプルテスター、固定式フリーローラーを設備

タンデムリフトにより床面はフラット、リール式排気ガスシステムも完備



ホイールバランス「ゲオダイナ6800」、レバーレスチェンジャー「TCSI-1100」でワイドタイヤにも対応



各種フルード関連機器も完備



照明はLEDで明るく快適な作業環境に



左がレセプションストール、右が納車室

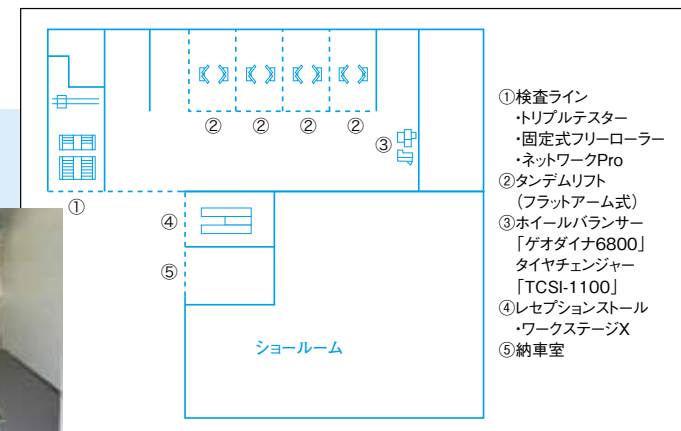


レセプションストールにはXリンク式ドライブオンリフト、ワークステージXを設備

お客様の声を、高品質なサービスに反映

サービス工場入口の右手に設けられたレセプションストールには、ワークステージXが設備され、清潔な室内で受入点検が行えるようになっています。「確実な作業により、安心してお乗りいただけることがサービスの最大の目的です」と高橋課長。そのため「メカニックもお客様と接する中で、お客様の生の声を聴き、サービスに生かしていくことが大切です」と、販売と連携して顧客満足に貢献するサービスの位置付けを強調されています。オープン間もない現在、指定工場の取得へ向けて確実な点検整備の実施に取り組まれているとのこと。

「おかげさまで立地も良く、オープン以来ご来店も非常に増えています」と鈴岡支店長。「より敷居を低く、ご来店いただくことが当面の課題です」と、新拠点での顧客拡大に意欲的に取り組まれています。



拡大する中・小型トラック市場へ向けて 新時代へのサービス体制を確立

岩手県盛岡市に本社を置く盛岡いすゞモーター(株)では、このたび旧花巻営業所を移転・新築し、新たに花北支店としてオープン。主に中型・小型トラックを対象とする最新の設備機器と整備能力を備えたサービス工場として、花巻、北上の2市をエリアとする新たなサービス体制を完成しました。



花北支店の外観、建物面積は約1,600㎡



サービスストール9ストール、奥に検査ラインと洗車場を併設



南向きとして明るいサービス工場、照明はLEDを採用

花巻、北上エリアの中心に新拠点

同社は岩手県内に本社ほか7拠点を展開、主力車種であるエルフを中心とする販売・サービスにあたっています。従来、同社盛岡支店と県南支店の中間に位置する花巻営業所が手狭となっていたことと、設備面でも新時代に即した環境整備を図るため、新たな拠点の建設が懸案とされてきました。

今回オープンした花北支店は花巻市と境界を接する北上市の北部に位置し、東京から青森を結ぶ幹線国道4号線に面した好立地です。店舗、事務所の奥に続くサービス工場はサービスストール9ストールで検査ライン、屋内洗車場、さらに部品整備作業場の計12ストールと余裕あるスペースを実現。将来的な入庫拡大にも対応できる規模となっています。



キャタピラツインIIミニを2基導入、作業性も大幅に向上

大型車用1柱リフト「プラトン10」とムービングラックも幅広い作業に活躍



エンジン、ミッション、デフ、各油種をリールで供給



取締役 花北支店長
高橋 寛氏



工場長
伊藤 司氏

効率化と作業環境の大幅改善を実現

新工場の主な設備は、中・小型トラック用にキャタピラツインIIミニを2基、大型車用1柱リフト「プラトン10」を1基、また小型トラック、乗用車整備にネオパスカルリフトを2基、四柱式ワークステージFを2基導入しています。これら各種の省力化、効率化設備の導入はもちろんのこと、新工場の計画にあたってとくに配慮されたのは「何よりも洗車作業の改善でした」と取締役花北支店長、高橋寛氏。「今までは屋外の洗車場だったので、何としても屋内洗車場として自動下部洗浄機の導入を切望していました」とのことと、とくに冬季、悪天候での洗車作業の負担軽減と時間短縮による効果に期待されています。

また工場の中央部分の1ストールを部品整備作業場として、大型車用タイヤチェンジャー「ボクサーキング」をはじめタイヤチェンジャー、ホイールバルンサーを各2台設置するなど、充実した設備内容となっています。

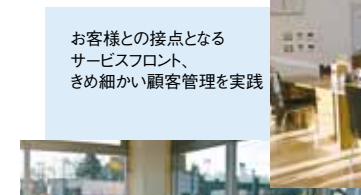


検査ライン、テスター機器は大型車まで対応



下部洗浄機を設備した屋内洗車場で洗車作業の省力化を実現

自動式下部洗浄機「ポートワッシャー」と温水洗車機「ナイスホット」



お客様との接点となるサービスフロント、きめ細かい顧客管理を実践



お客様待合室も明るく快適



ネオパスカルリフト(シリンダー埋設2柱リフト)、四柱式ワークステージFをそれぞれ2基導入



ワークステージFはドライブオン、フリーホイール作業も容易



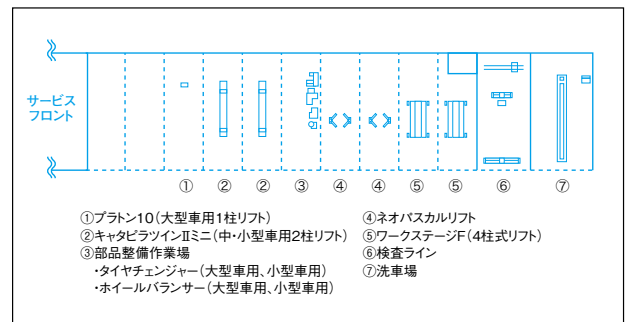
1ストールを部品整備作業場として、タイヤチェンジャー、ホイールバルンサーを各2台設置

業種に即したサービス管理を提供

同支店では主力車種であるエルフを中心に運輸関係、コンビニなどの物流、また建設関連など幅広い顧客層に、長年にわたって信頼ある整備を提供してきました。「これらの顧客の業務内容を把握していることが当社の強みです」と高橋支店長。入庫のご案内ひとつにも、業種の繁忙状況など、タイミングをとらえた提案ができるとのこと。

オープン以来、「工場を見ていかれるお客様も多く、お褒めの言葉もいただいています」と工場長の伊藤司氏。明るく快適な作業環境はメカニックにとって安全な作業環境であるばかりでなく、お客様にも安心の整備をアピールできることにもつながっています。

「これまでは工場規模の制約もありましたが、新工場の規模、設備を生かし、今後の入庫拡大に対応できる稼働体制を実現することが当面の課題」(高橋支店長)と今後への期待を述べられています。



SHOW ROOM

[パンタグラフ式リフト] イーグルFXリフト EGY-F32AZX/BZX

安全・快適な作業空間を追求、
足元を気にせず作業できる、究極のフラット化を実現!

「イーグルFX」は上昇・下降時も、床面のフラット化を極限まで追求。幅広い車種、サービスに対応し、作業効率の向上と快適な作業環境を実現する、新世代のパンタグラフ式リフトです。

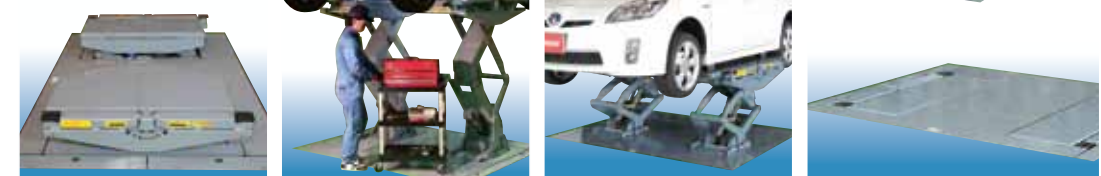
- 能力3.2t、揚程1.8m、RV、小型トラックまで対応
- 足元を気にせず作業できる、フラット化を実現
- 上昇、下降時も床面はフラット。工場の美観にも!
- エア圧0.4MPaから使用可能な省エネ設計

独自のリンク機構を採用
設置も容易な新世代パンタグラフ式

下記のQRコードをスマートフォンや
タブレット端末のバーコードリーダー
で読み取って下さい。



※通信費用はお客様のご負担となります。
QRコードは株式会社
デンソーウェーブの登録商標です。



床面 300mm上昇時からフラットキッ
が作動。
ツールスタンド等のキャスターが脱輪しま
せん。独自のリンク機構により足元のス
ペースがスッキリ。
低位置でのホイール脱着作業時も、
ナット等がビット内に落ちるのを防ぐこと
ができます。

型 式	EGY-F32AZX	EGY-F32BZX
能 力	3,200kg	
対 象 車 種	軽～普通乗用車、RV 軽トラック～小型トラック (ロングボディ車除く)	
本 体 寸 法	1,990 (L) × 2,130 (W) × 480 (H) mm	
揚 程	1,800mm	
油 圧 ユ ニ ッ ト	内蔵	別置き
受 台	スライドプレート・アーム兼用	
テ ー ブ ル 寸 法	482 (W) × 1,320~2,000 (L) mm	
上 昇 時 間	約66/55秒 (50/60Hz) (3,200kg負荷時)	
下 降 時 間	約48秒 (3,200kg負荷時)	
使 用 オ イ ル	ISO VG32 耐摩耗性油圧作動油 約7L	ISO VG32 耐摩耗性油圧作動油 約9L
動 力	AC200V 3相 2.2kW	
エ ー ア	0.4~1.0MPa	
本 体 重 量	約2,000kg	

NEW!! 3.2^{ton}
仕様

SHOW ROOM

[マットクリーナー] 洗王(あらおう) WD-2200-CS/CSCO

驚異の洗浄・脱水効果!
布タイプが洗える、自動車マット洗浄機

「洗王」は従来、水洗いは出来ても乾かさず方法がなかった、
布タイプの自動車マットも簡単・短時間に洗浄・乾燥が行える、
驚異のマットクリーナーです。

- 特許「真空脱水システム」で水洗い・乾燥が驚異の約35秒間で行えます!
- 水分を徹底的に除去・乾燥。嫌な臭いが残らず、窓ガラスの曇りも防止!
- 錆に強いオールステンレスボディを採用
- 優れたメンテナンス性、操作も容易です

標準で凍結防止仕様

標準でヒーター、保温材を装着。寒冷地でも凍結の心配がなく使用できます。
-30℃から30℃の間で作動温度が設定できます。

コイン式仕様もご用意(オプション 型式:WD-2200-CSCO)

料金と時間を自由に設定できるコイン式仕様も設定。
セルフサービス方式にも活用できます。

※100~400円で設定可能。100円硬貨のみ。つり銭機能はありません。



真空脱水システムで
洗浄・乾燥まで
約35秒!

型 式	WD-2200-CS (標準) / WD-2200-CSCO (コイン式)	
適用マット	最大幅	800mm
	最大厚	25mm
マット移送スピード		約17mm/sec
使用水量		5~7L/min
使用電力		単相AC 200V 50/60Hz
消費電力		2,500W
本体寸法	1,040 (W) × 650 (D) × 1,270 (H) mm	
本体重量		210kg
付 属 品		給水ホース (5m)

[コーティング剤] サイドミラー超撥水コート BCV-14E02

サイドミラーに「雨が付かない」新技術で
雨天時の視界アップ!

フロントガラスと違いサイドミラーには走行中でも風が当たらないため、撥水加工しても水滴が水玉状に付着して視界は良くなりません。

「サイドミラー超撥水コート」はナノレベルの微細な撥水成分をスキ間なく密集させた平滑な膜を形成することにより雨を寄せ付けず超撥水を採用。同時に高い透明性も実現します!

※着色、親水・撥水、防眩など特殊加工されたミラーや
ガラス以外のミラーへの施工は推奨いたしません。

型 式	BCV-14E02
内 容 量	200ml



簡単施工
3分

ナノレベルの
撥水膜で水滴の
付着を防止

[超撥水膜イメージ図]

SHOW ROOM

イグニッションコイルチェッカー HCK-701B

イグニッションコイルの上部に当てるだけで、
点火系のチェックが可能!

- 各種点火方式に対応
 - ・ダイレクトイグニッション方式・ハイテンションコード方式・同時点火方式に対応。
- 多彩な測定モードと表示タイプ
 - ・点火時期/ドエル角/エンジン回転数/2次電圧の測定モードを備えています。
 - ・それぞれチャート表示や比較表示など、多彩な測定モードで表示できます。
- コイル診断機能を搭載



型 式	HCK-701B
表 示 部	LCDタイプ:TFTカラー液晶モニター
入 力 端 子	5V 0.5A(内蔵バッテリー充電用USBコネクタ)
デ ー タ 保 存	内蔵メモリーにテスト結果を保存可能
質 量	約400g(プローブ部を含まず)

バッテリーチェッカー HCK-601FB-15CP

バッテリーチェッカーのマスターモデル!
さらに進化を遂げて新登場!!

- 各種エコカー用バッテリーに対応
 - ・充電制御車/アイドリングストップ車用バッテリー/ハイブリッド車用補機バッテリーの診断が可能。
- ダブルディファレンシャルパルス方式
 - ・電荷移動抵抗の増加による測定値の変動を算出し、より正確な劣化診断が行えます。
- 良否判定結果を5段階表示
 - ①良好 ②良好/要充電 ③要注意 ④要充電/再テスト ⑤交換
- バージョンアップ対応:JIS規格CCA値・型式の追加/変更など
- 印刷ボタン新設、脱着式バッテリーケーブルなど、使いやすさを向上
- ※24Vバッテリー:エンジン始動能力/チャージングシステムテストのみ対応



型 式	HCK-601FB-15CP
表 示 部	LCDタイプ:CDG
テスト可能バッテリー	JIS、EN(DIN)、SAE(BCI)※CCA入力、産業用の選択可
質 量	約700g(プリンター用紙を含まず)

TOPICS

お使いのライトリール・リモコンリール
こんな症状、
出ていませんか?

事故を誘発する危険性!!



無保守で5年以上使い続けていませんか?
劣化は外見だけでは分かりません!!

古くなった製品を使用し続けると...



このような状態で使い続けていると、「感電」や「火災」、「機器の誤作動」などの恐れがあり、
最悪「重大な物損事故・人身事故」につながります。



安全にご使用いただくためにも
専門家による定期的なメンテナンス、または代替をお勧めします

MSC経営戦略会議 第108回研究会を開催

自動車サービス業経営に先進的取り組みを展開するMSC経営戦略会議では、さる11月5日、6日の2日間にわたって第108回目となる研究会を開催しました。

1日目はバンザイ芝ビル4階を会場に、日刊自動車新聞社、関東支社長の高橋賢治氏をコーディネーターとして、「事業継承とこれからの整備業」をテーマにディスカッションとセミナーを行いました。いずれも会員各社にとって焦点となる課題だけに、財務の権限委譲や後継者としての経営戦略、収益・顧客拡大などについて各社の取り組みを紹介、また整備士の採用や給与体系などについてのアイデアやノウハウについて熱心な討議が行われました。

2日目は会場を東京ビッグサイトの東京モーターショーに移し、自動車メーカー各社の最新モデルの動向や次世代のクリーンエネルギー車、自動運転の最新技術などについて見学を行いました。



ディスカッションをリードするMSC議長、山崎太氏



コーディネーターの高橋賢治氏



各会員が自社の取組み事例を発表、意見交換を行った。

感動夢工場 第32回研究会を開催

車検、足回り、リペア、オイル、エコ診断の各工房からなる感動夢工場では、さる10月22日、23日の2日間、兵庫県神戸市において第32回研究会を開催しました。

今回は(株)ダイハツ明石西の代表取締役、織田久史氏を講師に迎え、「スタッフとともに成功するための5つの柱」と題する講演と、同社ダイハツ大久保店の見学を中心として研究会活動が行われました。

1日目の講演では、ディーラーのトップセールスから独立して同社を軌道に乗せるまでの、織田社長自らの体験をベースにした独自の組織運営手法と、具体的な事例にもとづいた経営論を展開。「社長だけが頑張らない」会社経営の仕組みづくりを中心に、社内外の清掃などの「環境整備」、会社のルールブックとしての「経営計画書の作成」、人と組織のレベルアップのための「社員教育」、社内の6つの委員会活動や食事会、面談などによる「コミュニケーション活動」、そしてこれらをもとにした「経営品質賞への挑戦」を同社の5つの柱として紹介しました。

2日目は同社「ダイハツ大久保店」を見学、店舗とサービス工場の随所に見られる環境整備と改善手法のありかたなど、9年間連続で兵庫県第一位の実績を挙げている同社の実践的取り組みに、参加会員たちは興味深く見入っていました。



挨拶を述べる感動夢工場会長、高間専逸氏



独自の「5つの柱」について述べる、講師の織田久史氏



体験に基づくメソッドを詳細に説明



ダイハツ大久保店、整理整頓も徹底

BANZAI GUIDE

バンザイグループの日本整備(株)「ハイブリーダー」がものづくり都市・川口市の「川口 i-mono (いいもの)」ブランドに認定されました。

かつては「キューポラのある街」として鋳物工業が栄えた工業都市、川口市は現在もその伝統を受け継ぎ、「ものづくり都市」として多くの産業を擁しています。この川口市に立地する企業の「高い技術力を生かした優れた製品」に対して、川口商工会議所から与えられるのが、「川口 i-mono」および「川口 i-waza」のブランド認定です。川口市内に本社・製造工場を置く、バンザイグループの日本整備(株)では、同社の主力製品「ハイブリーダー」がこのたび同ブランドの認定を受け、12月16日、認定式が行われました。

「ハイブリーダー」はブレーキフルードの自動交換・エア抜き機として、自動車サービスに画期的な省力化を実現。他社の追随を許さない商品力を持ち、発売以来30年間にわたって業界トップシェアを誇っています。

同社の山下幹彦代表取締役は、「川口市で40年間にわたって製造・販売してきたことから、諸先輩への感謝の気持ちとして、また従業員の励みにもつながれば…」と認定の喜びを語っています。

認定商品については同ブランドの商標とロゴマークの使用が認められるほか、地域商品として各種の支援が行われるとのこと。同社では「ハイブリーダー」の拡販に、また地元ブランドのPRとしても「川口 i-mono」を活用していきたいとのこと。



日本整備 株式会社 代表取締役 山下 幹彦 氏



「川口 i-mono」認定証



日本整備従業員の皆様

39キャンペーン 第4弾

ご好評にお応えして、本年も開催！
このチャンスに、話題の新商品をお買い得価格で！

割引総額392,000円！ 開催期間：平成28年1月5日～3月末日
詳細については最寄りのバンザイまでお問い合わせください。



編集後記



あけましておめでとうございます。
昨年バーレーンの首都マナーマにあるお客様のサービス工場を訪問する機会がありました。そこには約30年前に納入したパスカルリフトが今も現役で稼働しており、使い込んだ後はありましたがとても良い状態でした。聞けば今までこれといった不具合はなかった、とのこ

と。遠い異国の地で頑張り続ける自社のリフトに少し誇らしい気分になりました。12月にイーグルFXリフトが発売となりましたが、このリフトも長くお客様のお役に立てるような工夫を凝らした自信作となっております。本年もバンザイ商品・バンザイニュースともども、なにとぞお引き立ての程お願い申し上げます。

<倉野>